SAISON TECHNOLOGY

HULFT10

企業間・システム間のデータ連携を実現。
国内シェアNo.1のファイル連携ミドルウェア。

オンプレ・クラウド間も、大容量も、厳しいセキュリティ要件の下でも HULFT10で確実に転送できます



HULFT10（ハルフトテン）は「ファイル連携ミドルウェア」です。オンプレミスからクラウドまで、異なるシステム間のファイル連携を、安全かつ確実に実行します。長年「止めてはいけない」基幹業務を支えてきたHULFTの最新版です。

企業間・システム間で重要なファイルをやりとりする情報システム部門の方へ
基幹連携の確実性を保ちつつ、クラウド化・性能・セキュリティを底上げしたい方に向けた資料です。

確実さはそのままに、クラウド時代の要件へ

販売・在庫・会計などの基幹データを、毎日決まった時刻に、欠かさず確実に。その土台をHULFTは長年支えてきました。HULFT10は確実さをそのままに、クラウド対応・転送性能・セキュリティを強化しています。

こんな課題を抱えていませんか

基幹のファイル連携を担っていると、次のような課題に行き当たります。

ISSUE 01
クラウド化に対応できない
システムはクラウドへ広がる一方、連携基盤はオンプレ前提のまま。つなぐたびに個別の作り込みが必要です。

ISSUE 02
転送に時間がかかる
ファイルは大きく、本数も増える一方。転送が終わらず、夜間バッチや月次の締め処理が翌朝に食い込みます。

ISSUE 03
セキュリティ要件が厳しい
取引先から指定される暗号化方式、監査で求められる証跡。満たすべき水準は毎年上がっていきます。

ISSUE 04
確実に届いたか分からない
夜間に転送が失敗しても翌朝まで気づけない。届いたファイルが欠けていないかも、確かめようがありません。

※「国内シェアNo.1」の出典：株式会社富士キメラ総研「2004-2010パッケージソリューション・マーケティング便覧」「ソフトウェアビジネス新市場2011-2026年版」
＜ファイル転送ツール パッケージ・金額ベース・ベンダーシェア＞2003年度実績～2025年度実績（2023年度実績より現社名）

HULFTで課題を解決

SOLUTION 01

オンプレもクラウドもコンテナも、同じ仕組みで連携できる

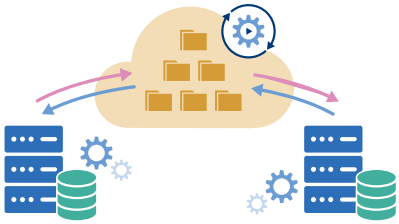
オンプレミスやクラウド、メインフレームなど多様なシステムが混在している環境でも、一貫したファイル連携によってシンプルかつ確実な運用を実現します。



SOLUTION 02

大容量・大量ファイルも、もっと速く送れる

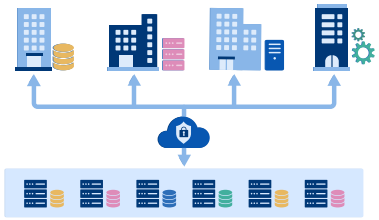
新しい圧縮方式の採用により、転送にかかる時間を短縮できます。ファイルが大きく、本数が増える環境でも、夜間バッチや月次の締め処理を圧迫せずに運用できます。



SOLUTION 03

重要データを、基準を満たして安全に送れる

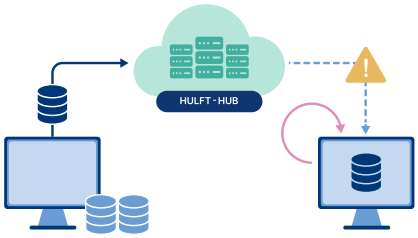
取引先から指定される暗号化方式や、監査で求められる証跡。満たすべき水準は年々上がっています。HULFT10なら要件が上がっても、都度の作り込みなしで対応できます。



SOLUTION 04

届かない・欠けたままを、見逃さずに送れる

受信データと送信データの整合性を検証し、欠落や改ざんが発生していないかを検知します。また、ネットワークエラーでファイル転送が失敗した場合でも、復旧後、自動的に再配信を完了させます。



ファイル転送ツール
国内シェア
23年連続 No.1※

導入社数
12,000社以上
※2026年3月時点

採用実績
46ヵ国
※2026年時点

HULFTの実績と品質

企業間・システム間のファイル連携で、HULFTは長年にわたり選ばれてきました。製品障害発生率0.09%（障害件数／出荷本数、2026年5月時点）という品質が、その土台にあります。

※「国内シェアNo.1」の出典：株式会社富士キメラ総研「2004-2010パッケージソリューション・マーケティング便覧」「ソフトウェアビジネス新市場2011-2026年版」
＜ファイル転送ツール パッケージ・金額ベース・ベンダーシェア＞2003年度実績～2025年度実績（2023年度実績より現社名）

選ばれる理由

POINT 01



クラウドネイティブ対応

Amazon ECS・Red Hat OpenShiftに対応。REST APIでクラウド側から運用監視や転送制御も行えます。

POINT 02



転送性能向上・効率化

オープン系はZstandardで従来比約1.4倍。z/OSではzEDCにより、特定の環境下で約5倍を実現します。

POINT 03



高度なセキュリティ対応

FIPS140-2取得のHULFT Cipher Option（AES）で暗号化。PCI DSS v4.0準拠も支援します。

POINT 04



マルチプラットフォーム対応

Windows・LinuxからAIX・IBM i・z/OSまで対応。基幹・メインフレームの連携もそのまま担えます。

POINT 05



豊富な製品ラインナップ

基本製品からコンテナ版、統合管理のHULFT10 API Gateway／Managerまで、用途に合わせて選べます。

＼＼ 安全・安心の裏付け ／／

- Zstandard従来比約1.4倍
- FIPS140-2取得
- PCI DSS v4.0準拠支援

土台にあるもの
― 変わらない確実性

これらの強化はすべて、HULFTが長年培ってきた「欠かさず、確実に届ける」という土台の上にあります。速さや広がりが進化しても、その根底にある信頼は変わりません。

対応の広さ —どんな環境でも、HULFTで

オンプレミスの主要サーバーOSから、クラウド・コンテナ環境までカバーします。

サーバーOS

Windows・LinuxからAIX・IBM i・z/OSまで対応。止められない基幹システムのファイル連携も担えます。

- Windows
- Linux
- AIX
- IBM i・z/OS

コンテナ

クラウドネイティブな構成でも、HULFTで連携できます。

- HULFT10 for Container Services（Amazon ECS）
- HULFT10 for Container Platform（Red Hat OpenShift）

周辺コンポーネント

HULFT10 API Gateway／HULFT10 Managerで複数のHULFTを統合管理。暗号化やクラウドストレージ連携もオプションで拡張できます。

- HULFT10 API Gateway
- HULFT10 Manager
- HULFT Cipher Option（暗号化オプション）
- HULFT Cloud Storage Option

認定・準拠

AWS認定ソフトウェア（AWS Qualified Software）

Red Hat OpenShift Operator認定

数が増えてきたら — HULFT-HUB

導入が進むほど転送経路は増え、設定変更や障害切り分けに時間がかかります。
HULFT-HUB（ハルフトハブ）は分散したHULFTを統合し、構成・稼働・転送状況を把握できるようにします。

HULFT-HUBの特長

セキュリティの確保	操作ログを一元的に管理・監視でき、不正な操作が行われた際の把握や事前の抑止も可能です。
DR・レプリケーション	障害が発生し拠点の「HULFT」へデータが送れない場合、HULFT-HUB内にデータを保全できます。レプリケーション機能を用いれば簡易的なDR対策が可能です。
稼働状況の見える化	分散したHULFTの状況を把握し、障害対応を迅速化します。

ユースケース

目的の近い使われ方から、導入後の変化を具体的にたどれます。

基幹連携
運用する
止めない基幹連携

- 課題：転送の欠損や遅れが基幹業務の停止につながり、復旧に人手をかけていた。
- 施策：安定して運用できるように、基幹連携をHULFT10で標準化した。
- 効果：欠損なく確実に届く連携で、基幹業務を止めずに支えた。

クラウド移行
拡張する
作り方は変えずに

- 課題：オンプレミス中心の連携をクラウドへ広げるたび、作り方を組み直していた。
- 施策：HULFT10で、クラウド・コンテナ環境へ連携を拡張した。
- 効果：連携の作り方を変えずに、クラウドへ広げられた。

企業間連携
授受する
重要データを
欠かさず

- 課題：取引先とのやりとりでエラーが出るたび、送信・受信の双方で原因を追っていた。
- 施策：ファイルIDを決めるだけで連携を開始し、暗号化と改ざん検知で経路を保護した。
- 効果：原因特定が容易になり、送信・受信側双方の工数を削減できた。

拠点間連携
標準化する
スクラッチ開発
なしで

- 課題：拠点やシステムごとに、FTPと個別開発で連携を組んでいた。
- 施策：転送に必要な処理をHULFT10の設定で吸収し、連携方法を標準化した。
- 効果：スクラッチ開発が不要になり、安全・確実な転送を自動化できた。

オンプレ連携
中継する
セキュアに、
環境をまたいでも

- 課題：オンプレミスとクラウドで連携の作り方が分かれ、管理と運用も二重になっていた。
- 施策：中継機能を挟み、インターネット経由のセキュア転送の仕組みを構築した。
- 効果：オンプレミスからクラウドまで、一貫した管理・運用を実現できた。

コンテナ連携
稼働する
コンテナで、ECS・
OpenShift上で

- 課題：コンテナ環境への移行後、既存システムや他社との連携継続が課題だった。
- 施策：コンテナも稼働できるように、ECS・OpenShiftでHULFT10を対応させた。
- 効果：コンテナオーケストレーション技術により、柔軟な連携を実現できた。

選ばれている業種

金融業・保険業　製造業　卸売業・小売業　情報通信業

技術問い合わせ・障害対応・アップデート支援に加え、
パートナー企業による導入支援もあります。
止められない連携だからこそ、導入したあとを一緒に見ます。

導入の進め方

STEP 01

評価版で試す

実際の環境で転送を試し、使い勝手と効果を確かめます。

STEP 02

要件相談・お見積り

対象の環境や規模を伝え、構成と概算費用を相談します。

STEP 03

段階的に導入

まず一部の連携から始め、無理のない範囲で広げます。

価格の目安

自社の構成に合わせたお見積りは、お問い合わせからご相談ください。

※価格はエディションや提供形態により異なります（エディション別の価格表はウェブサイトからダウンロード可能です）。
※コンテナ対応製品は従量課金制で、大規模利用を想定した年額モデルもあります。

こんなときに…

- 基幹のファイル連携を確実に回したい
- オンプレの連携をクラウド・コンテナへ広げたい
- 転送のセキュリティ基準を満たしたい

特長・機能を詳しく知る
製品ページを見る

操作を実際に試せます
評価版をダウンロード

詳細・価格をご案内
お問い合わせ・お見積り

※HULFT、HULFT Square、DataSpider Servista その他関連製品は、株式会社セゾンテクノロジーの登録商標または商標です。
※その他の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。